

子どものこころの発達研究センター

1. 領域構成教職員・在職期間

| | | |
|--------------------|---------------------------|------------------------|
| センター長 | 安田 年博 | 令和5年1月－(再任) |
| 脳機能発達研究部門・教授 | 松崎 秀夫 | 平成24年11月－ |
| 脳機能発達研究部門・特命教授(兼任) | 坂野 仁 | 平成25年4月－ |
| 脳機能発達研究部門・招聘教授 | 佐藤 真 | 平成23年4月(平成31年4月より現職)－ |
| 脳機能発達研究部門・助教 | 謝 敏カク | 平成25年11月(平成28年7月より現職)－ |
| 脳機能発達研究部門・助教 | 國石 洋 | 令和4年6月－ |
| 情動認知発達研究部門長・准教授 | 水野 賀史 | 令和3年6月－ |
| 情動認知発達研究部門・教授(兼任) | 小坂 浩隆 | 平成24年2月(平成30年5月より現職)－ |
| 情動認知発達研究部門・教授(兼任) | 岡沢 秀彦 | 平成23年4月－ |
| 情動認知発達研究部門・教授(兼任) | 清野 泰 | 平成23年4月－ |
| 情動認知発達研究部門・特命助教 | 濱谷 沙世 | 令和3年9月－ |
| 情動認知発達研究部門・特命助教 | 山下 雅俊 | 令和4年4月－ |
| 発達支援研究部門長・教授 | 友田 明美 | 平成23年6月－ |
| 発達支援研究部門・教授(兼任) | 大嶋 勇成 | 平成23年4月－ |
| 発達支援研究部門・客員教授 | 平谷 美智夫 | 平成26年4月－ |
| 発達支援研究部門・客員教授 | 清水 聡 | 平成24年12月－ |
| 発達支援研究部門・准教授 | 藤澤 隆史 | 平成25年4月(令和2年4月より現職)－ |
| 発達支援研究部門・特命講師 | 西谷 正太 | 令和元年6月(令和4年4月より現職)－ |
| 発達支援研究部門・特命助教 | Natasha Yuriko dos Santos | 令和3年5月－ |
| 発達支援研究部門・特命助教 | 平岡 大樹 | 令和4年7月－ |
| 地域こころの支援部門・客員教授 | 杉山 登志郎 | 平成29年4月－ |
| 地域こころの支援部門・准教授 | 森本 武志 | 平成29年10月－ |
| 地域こころの支援部門・特命准教授 | 鈴木 太 | 平成29年9月(令和4年4月より現職)－ |
| 地域こころの支援部門・特命職員 | 藤枝 政矩 | 令和5年1月－ |

2. 研究概要

研究概要

【情動認知発達研究部門】

本部門は、主にMRIを用いてヒトの脳の構造や機能を可視化することで、以下の3つのミッションに取り組んでいる。

- ①神経発達症の生物学的神経基盤の解明
 - ②臨床に資するバイオマーカーの開発
 - ③新たな神経発達症支援の方法の確立
- これらのミッションを達成するため、以下の3つを基本的な方針としている。

1. データベースの活用と構築

全米21施設が共同し、約12,000名の子どもの脳画像・遺伝子・行動データを縦断的に集積していく大規模研究、ABCD (Adolescent Brain Cognitive Development) Studyをはじめとしたデータベースを有効に利用し、データ解析に必要な多サンプルを使って研究を行っている。さらに、連合大学院を基盤とした多機関共同研究による独自のデータベースを構築し、独立したサンプル集団においても、再現可能な結果を追求していく。

2. オンライン診療に関する研究の推進

治療者の不足、治療機関へのアクセスの困難等のために、必要な治療を提供することが難しい場合がある。その解決策として、いつでもどこでも容易にアクセス可能なオンライン診療(セルフヘルプ遠隔治療)の普及を推進し、研究を行っている。自宅等でより早期に有効な治療法にアクセス可能な遠隔医療の仕組みを構築していく。

3. 幅広い背景を持った研究者・機関との共同研究の推進

上述のような研究を遂行するためには、小児発達学、児童精神医学、放射線医学、心理学、神経科学、情報科学、教育学などの幅広い分野における高度な知識、技術が必要だと考えている。そのため、様々な分野、背景をもった研究者との共同研究を積極的に推進している。具体的には、福井大学内における医学部小児科学、精神医学、放射線医学、高エネルギー医学研究センターに加え、連合小児発達学研究所(大阪大学、金沢大学、浜松医科大学、千葉大学)、Stanford大学、Korea Brain Research Instituteなど、国内外の研究機関と幅広く共同して研究をすすめていく。

【脳機能発達研究部門】

本研究部門では、こころの形成・発達の基盤である「脳の発達の仕組み」を分子・細胞レベルで解明することを目的とした研究活動を行っている。さらに、これらの研究で得られた成果をもとに、神経発達症者の診療・支援への応用を視野に入れた特定臨床研究を実施している。また、大学院生を対象とした教科書『発達障がい一病態から支援まで』を編集し、朝倉書店から発行した。

1. 自閉スペクトラム症の病態モデル研究
自閉スペクトラム症のマウスモデル研究を進め、モデルの表現型を改善する物質を見出して、特許を出願した。（自閉スペクトラム症改善剤 令和5年1月26日出願：特願2023-10567）
2. 臍帯血中の脂肪酸が出生体重に与える影響に関する共同研究
浜松医科大学との共同研究により、低出生体重の要因に関して出生コホート研究を進めた。その結果、在胎不当過小児ではリノール酸（LA）由来のジドロキシオクタデセン酸（diHOME）臍帯血中濃度が有意に高く、さらに重回帰分析で産科的要因を調整すると、ひろく出生児の体重と臍帯血中LA、9, 10-diHOME、12, 13-diHOMEの濃度との間に有意な負の相関があると判明した。
3. 社会的隔離が脳神経回路の発達に与える影響に関する共同研究
国立精神・神経医療研究センターとの共同研究により、社会的隔離がマウス脳の発達に与える効果について研究を進めた。発達期に社会隔離を経験したマウスで情動処理の中核である眼窩前頭皮質から扁桃体へのシナプス投射を測定したところ、速い興奮性神経伝達を担うAMPA電流由来の電流成分が、内側眼窩前頭皮質からは低下、外側眼窩前頭皮質からは増加していることが判明した。
4. ミトコンドリア活性測定に関する共同研究
ブラジル・カンピーナス州立大学との国際共同研究により、細胞外フラックスアナライザーを用いて、凍結保存したヒトリンパ球中のミトコンドリア活性を測るプロトコルを作成した。
5. マウス脳皮質の神経回路形成に関する共同研究
大阪大学との共同研究により、樹状突起スパイン形成のメカニズムに関して研究を進めた。脳内でスパイン成熟に関わるアクチン結合タンパク質DrebrinAとPhldb2との相互作用がスパインの形成にどう影響するのかを検討した結果、成熟したマウスの脳ではPhldb2がDrebrinAの局在を制御することで、スパイン形態やシナプス可塑性に重要な役割を与えていることが示された。
6. 自尊心を高める教育プログラムの妥当性の検証
学童の自尊心を高める目的で開発された「Treasure-file program (TFP)」の科学的妥当性を検証するため「子どもや成人のこころの健康に関する調査・研究」を立ち上げて研究を進めた。福井県内外の小中学生を対象にしたTFPの教育実験を行った結果、TFPが学童の自己肯定感を高めるうえで有用である成果が得られた。

【発達支援研究部門】

発達支援研究部門は、次世代を担う子どものこころの健康を積極的に支援するために設立された部門であり、国内外の研究者と連携して以下のような研究を行っています。

1. マルトリートメント予防のための分子生物・脳画像学研究とその社会実装
子ども虐待・ネグレクトによる愛着障害の報酬系への影響や、感受性期の脳への影響、エビジェネティクスや養育者支援に関連する研究を行い、その成果を地域に定着させる取り組みを行っています。また、「マルトリ予防」と「とも育て」に関する研究と社会貢献を推進しています。
2. 脳活動の可視化による発達障がいの新たな科学的評価法の研究開発と応用
注意欠如・多動症（ADHD）児や自閉スペクトラム症（ASD）児、愛着（アタッチメント）障害児の脳構造・機能の特徴を脳画像で可視化する評価法の研究開発を行っています。
3. 子どもの未来を拓くマルトリートメント予防システムの妥当性検証
子ども虐待対策のうち、養育者のメンタルヘルスへの支援が重要ですが、コロナ渦で停滞している状況です。科学的根拠に基づいた養育者支援システムの構築や成果の普及、専門家の育成を目指し、精神疾患予防を見据えたオンラインによるマルトリートメント予防推進モデルを構築するための研究を行っています。
4. 発達障がい児の養育者を対象としたペアレントトレーニング・プログラムに関する研究
発達障がい児の子育てに関する支援プログラムが母親のストレスや親子関係の改善にどのように関連しているか、また、プログラムの効果が親子の脳機能・構造に及ぼすかを検証する研究を行っています。
5. 子育て困難な養育者の支援・介入法確立のための脳画像エビゲノム解析研究
子どもへのマルトリートメントのリスク要因となる子育て困難な養育者の脳・エビジェネティクス機序の解明、及びマルトリ・リスクを判定するバイオマーカーの開発を推進しています。

キーワード

【情動認知発達研究部門】

神経発達症、注意欠如多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）、MRI

【脳機能発達研究部門】

自閉症、診断マーカー、Gazefinder、ミトコンドリア、5-ALA、セロトニン・トランスポーター、NSF、オリゴデンドロサイト、TFP、自尊心、嗅覚系、出力判断、シナプス、GABA、慢性疼痛

【発達支援研究部門】

子どものこころ、発達障害、愛着障害、マルトリートメント、養育者支援、エビジェネティクス

業績年の進捗状況

【情動認知発達研究部門】

1. ADHD児におけるメチルフェニデートの脳内ネットワークに対する作用を解明

スタンフォード大学と共同し、注意欠如・多動症（ADHD）に対して第一選択薬として使用されているメチルフェニデートの脳内ネットワークに対する作用を明らかにするため、安静時機能的磁気共鳴画像法（resting state fMRI）を用いて検証を行った。ランダム化プラセボ対照二重盲検クロスオーバー比較試験を行い、注意力や認知制御に関係している脳神経ネットワークであるトリプルネットワーク（Salience Network, Default Mode Network, Frontoparietal Network）に対するメチルフェニデートの影響を検討したところ、ADHD児では、トリプルネットワークの相互作用動態に異常を認め、メチルフェニデートがその異常を改善させることが明らかとなった。本研究は、メチルフェニデートの脳内作用における新規のメカニズムを特定し、ADHDの治療効果を評価するのに役立つ客観的バイオマーカーの開発につながる可能性がある。本成果は英国科学雑誌Neuroimageで発表された（Mizuno et al., Neuroimage, 2022）。

2. 連合大学院による脳画像データベース構築と、ABCD Studyによる大規模データベースを活用した研究

大阪大学との共同研究により、ASDとADHDの併存患者は、定型発達児よりも左中心後回の脳容積が少ないことを明らかにした（Mizuno et al., Transl.

Psychiatry, 2019）。この成果と研究体制を元に、大阪大学に加え、千葉大学とも共同し、各機関の既存データを整理すると共に、新規データの取得に向けて、準備をすすめた。

また、全米21施設が共同し、約12,000名もの子どもの脳画像・遺伝子・行動データを縦断的に集積していく大規模研究、ABCD (Adolescent Brain Cognitive Development) Studyのデータベースを活用した研究を行った。具体的には、COVID-19パンデミックが子どものメンタルヘルスに対する影響、妊娠中の母親への大麻使用が子どもの発達過程に及ぼす影響について検証し、その成果をScientific ReportsとDevelopmental Cognitive Neuroscienceで発表した（Hamatani & Hiraoka et al., 2022, Hiraoka et al., 2023）。

3. ADHD児とその保護者に対するインターネット認知行動療法の開発

ADHD児とその保護者に対するガイド付きインターネット認知行動療法プログラムを開発するために、研究計画の立案と実施体制を構築した。具体的には、ADHDの全体症状、不注意症状、多動症状、衝動性症状に認知行動療法で使われる技法の中で効果が高いものは何かを調べることを目的として、鹿児島大学、専修大学、千葉大学と共同でコンポーネント・ネットワーク・メタアナリシスに取り組んだ。なお、本プロジェクトは、プロトコルペーパーとしてBMJ Openで発表された（Hamatani et al., 2023）。今後は、特定された治療要素を含めてADHD児とその保護者に対するプログラムを開発する予定である。

4. 神経性過食症の日本人女性に対するオンライン・セルフヘルプ認知行動療法プログラムの開発

過食や嘔吐の問題を抱える日本人女性が、インターネット上で取り組むことのできる、日本文化に適合した認知行動療法プログラムを開発した。エビデンスの確認された認知行動療法の技法を、オンライン治療でも同様の治療体験ができるように再構築し、研究協力者12名にインタビューをした結果、開発したプログラムが日本文化に非常にうまく適合していることが明らかになった。本成果はFrontiers in Psychiatryで発表された（Hamatani et al., 2022）。今後は、本プログラムの実用性と有効性について検証する予定である。

【脳機能発達研究部門】

1. 自閉スペクトラム症の病態モデル研究

自閉スペクトラム症のマウスモデル研究を進め、モデルの表現型を改善する物質を見出して、下記の特許を出願した。

・自閉スペクトラム症改善剤 出願日：令和5年1月26日 出願番号：特願2023-10567

出願人：国立大学法人福井大学、学校法人近畿大学、福畑香料株式会社

発明者：松崎秀夫、謝敏珏、財満信宏、吉岡百合

2. 臍帯血中の脂肪酸が出生体重に与える影響に関する共同研究

浜松医科大学との共同研究により、低出生体重の要因に関して出生コホート研究を進めた。母体の過剰な炎症反応に関与する胎盤でのチトクロームP450 (CYP) 経路ではエポキシ脂肪酸 (EpFA)、さらにその代謝でジヒドロキシン脂肪酸を生成する。この研究では、出生時に得られる臍帯血中のEpFA代謝産物と出生児の体重との関連を網羅的に検討した。その結果、在胎不通過小児 (出生体重が在胎期間に対して10%未満の乳児) では、リノール酸 (LA) 由来のジヒドロキシン脂肪酸 (diHOME) 臍帯血中濃度が有意に高いことを見出した。さらに重回帰分析で産科的要因を調整すると、出生体重とLA濃度、9,10-diHOME、12,13-diHOMEの間に有意な負の相関があると判明した。以上より、臍帯血中のLAとdiHOME濃度が胎児の成長に関与する可能性が示された。(Umeda et al., Front. Endocrinol. 2022)。

3. 社会的隔離が脳神経回路の発達に与える影響に関する共同研究

国立精神・神経医療研究センターとの共同研究により、社会的隔離がマウス脳の発達に与える効果について研究を進めた。脳の発達においても重要な「思春期」に社会的コミュニケーションを適切に経験できないと脳機能に異常が生じ、行動の発達に阻害される機序が想定される。しかしシナプス伝達レベルでの知見は得られていなかった。そこで、思春期に相当するマウスを他個体から社会的に隔離飼育したうえで情動処理の中核である眼窩前頭皮質から扁桃体へのシナプス投射を測定したところ、速い興奮性神経伝達を担うAMPA電流由来の電流成分が、内側眼窩前頭皮質からは低下、外側眼窩前頭皮質からは増加していることが判明した。さらに光遺伝学的にシナプス伝達操作を行い隔離飼育マウスで認められたシナプス伝達を再現したところ、通常の集団飼育のマウスにおいても隔離マウスと同様の社会行動の低下や受動的ストレス対処行動が増加することが示された。(Kuniishi et al., Neuropsychopharmacology. 2022)。

4. ミトコンドリア活性測定に関する共同研究

ブラジル・カンピナス州立大学との国際共同研究により、細胞外フラックスアナライザーを用いたHuman Frozen PBMCs (凍結保存したヒトリンパ球) のミトコンドリア活性測定プロトコルを作成した (Iwata et al., Methods Mol. Biol. 2022)。

5. マウス脳皮質の神経回路形成に関する共同研究

大阪大学との共同研究により、樹状突起スパイン形成のメカニズムに関して研究を進めた。Phldb2タンパク質はシナプス可塑性に関与することが当部門の先行研究で示されている。この研究では、脳内でスパイン形成に関わるアクチン結合タンパク質DrebrinAとPhldb2との相互作用がスパインの形成にどう影響するのかを検討した。その結果、成熟したマウスの脳ではPhldb2がDrebrinAの局在を制御することで、スパインの形態やシナプスの可塑性に重要な役割を与えていることが示された。(Xie et al., Neurosci. Res. 2022)。

6. 自尊心を高める教育プログラムの妥当性の検証

学童の自尊心を高める目的で開発された「Treasure-file program (TFP)」の科学的妥当性を検証するため「子どもや成人のこころの健康に関する調査・研究」を立ち上げて研究を進めた。福井県内外の小中学生を対象にしたTFPの教育実験を行った結果、TFPが学童の自己肯定感を高めるうえで有用である成果が得られた (Iwahori et al., Humanit. Soc. Sci. Commun. 2022)。

【発達支援研究部門】

1. マルトリートメントを受けて反応性愛着障害を発症した子どもを対象に、オキシトシン経鼻投与による神経報酬処理への影響を解明

科学研究費基盤研究 (A) で実施された脳画像研究では、マルトリートメント (虐待、ネグレクトなど不適切な養育) を受けて育ち、反応性愛着障害を発症した子どもを対象に、オキシトシン経鼻投与による神経報酬処理への影響を世界初で解明しました。本研究は、同障害の病態解明や病態特徴に基づく治療開発など、臨床応用への発展に貢献しました。本研究成果はFrontiers in Child and Adolescent Psychiatry誌に掲載されました。

2. ペアレントトレーニング効果判定のための実行機能・MRI脳計測による客観的手法の開発

ADHD児の母親に対して、ペアレントトレーニングプログラムの無作為比較研究を実施し、同プログラムが母親のストレスだけでなく、子どもの認知機能や親の脳機能も改善することを世界初で発見しました。このプログラムがエビデンスに基づいた子育て支援に貢献することが明らかになり、コロナ禍の中で、本学は「オンラインによるマルトリートメント予防推進モデル構築」を推進し、国内の養育者支援事業に寄与しました。本研究の成果はFrontiers in Psychiatry誌およびBrain Imaging and Behavior誌に掲載され、前者の論文は本学優秀論文賞を受賞しました。

3. 世界第5番、アジア初の日本人・脳-末梢組織間メチル化関連データベース公開

世界第5番、アジア初となる日本人・脳-末梢組織間メチル化関連データベースを開発し、論文と共に公開しました。DNAメチル化には組織特異性があり、ヒトの精神疾患やこころのエピゲノムの解明には、脳組織が必要というジレンマがあります。しかし、脳組織は容易には得られないため、摘除腫瘍組織などを直接扱うがんエピゲノムの解明などと比べ、研究の進展にはブレイクスルーが必要となります。その一つとして、死後脳または脳外科手術 (患者さんの治療・生命予後のため) で摘除した脳組織の一部を活用することで、同一人物の脳と末梢組織 (血液、唾液など) のメチル化を同時測定し、それらの間の関連データベースがこれまでに4つ開発・公開されてきました。このような関連データベースを利用することで、様々な研究者が代替試料として末梢組織を使って行った個々の研究で得た結果を、脳のメチル化との関連性を調べ、議論を深めることに活用できます。これまでに英、加、米、独版のデータベースがありましたが、アジア版はありませんでした。人種による遺伝的背景の違いは、エピゲノムの違いにも影響しますので、日本人から構築された今回のデータベースは、日本だけでなく、アジア各国発の精神疾患やこころのエピゲノム研究にとって強みとなり、その精神疾患とこころのエピゲノム研究分野全体の底上げに極めて有用なツールと考えられます。本研究成果はTranslational Psychiatry誌に掲載されました。

4. 児童青年期脳認知発達 (ABCD) 研究における出生前大麻曝露が認知能力と脳容積の発達軌跡に及ぼす影響

米国で2015年にスタートし、19拠点で9,000人の子どもたちを成年に達するまで縦断追跡する大規模長期コホートABCDプロジェクト (Adolescent Brain and Cognitive Development) のデータを利用し、妊娠中の大麻使用 (胎児期の大麻への曝露) が子供の視覚知覚処理能力と脳発達に及ぼす影響 (発達が進むにつれて徐々に顕在化・拡大する可能性) を情動認知発達研究部門と協働で突き止めました。本研究成果はDevelopmental Cognitive Neuroscience誌に掲載されました。

5. 神経発達症を有する日本人小学生の読みに対する知能と認知能力の影響

境界域IQ (BIQ) と正常域IQ (NIQ) の発達性ディスレクシア (DD) の小学生において、ひらがな無意味語・有意意味語、漢字の読みにおける成績の差の有無、及び全DD参加者の小学生の読みに対するWISC-IVの4指標を含む認知要因の影響を調査しました。ひらがな無意味語の読みにおいて、NIQのDDとBIQのDDで群間差が見られ、認知要因ではワーキングメモリーの指標が全DD参加者の読みの成績に影響していました。この結果から、DDにおけるIQの低さと音韻ワーキングメモリーの弱さが、文字を語単位でまとめて音韻に変換する語彙経路での読みの処理習得を妨げることが明らかになりました。本研究成果はBrain & Development誌に掲載されました。

6. 安定した環境が虐待を受けた子どもに与える影響

他者の表情を理解する能力の発達は、育った環境に依存すると考えられています。不安定な環境にいる虐待を受けた子どもたちの他者の表情を理解する能力を、「目で読む心」の中の声テスト (RMET課題) で測定し、虐待を受けたことのない子どもたちと比較した結果、不安定な環境にいる被害児は、他者の表情に対して過敏性があるが、安定した環境にいるとそのような過敏性が減少することが、本学精神科との共同研究で明らかになりました。本研究成果はPediatrics International誌に掲載されました。

【特色等】

【情動認知発達研究部門】

MRIを用いてヒトの脳の構造や機能を可視化することで、①神経発達症の生物学的神経基盤の解明②臨床に資するバイオマーカーの開発③新たな神経発達症支援の方法の確立を目指す研究を展開している。主に連合小児発達学研究所による脳画像データベース構築と、ABCD (Adolescent Brain Cognitive Development) Studyによる大規模データベースを活用した研究に取り組んだ。また、神経性過食症の日本人女性に対するオンライン・セルフヘルプ認知行動療法プログラム研究でも報告した。

【脳機能発達研究部門】

こころの主な基盤と考えられている脳神経回路形成のプロセスの解明をめざす基礎研究と自閉スペクトラム症 (自閉症) の診療への応用研究を主として展開している。令和4年度は自閉症の病態モデル研究、臍帯血中の脂肪酸が出生子の体重に与える影響、社会的隔離がマウス脳の発達に与える効果などについて報告した。また、以上の他に自閉症児童を対象にした特定臨床研究を開始し、ミトコンドリア活性測定の共同研究、子どもの自尊心を高める教育プログラムの妥当性の検証についても報告した。

【発達支援研究部門】

次世代を担う子どものこころの健康を積極的に支援するため、国内外の研究者と連携してマルトリートメント予防のための分子生物・脳画像学研究とその社会実装、子ども虐待・ネグレクトによる愛着障害の報酬系への影響や、感受性期の脳への影響、エピジェネティクスや養育者支援に関連する研究を行った。また、「マルトリートメント」とも育てて」に関する研究と社会貢献を推進した。以上の他に脳活動の可視化による神経発達症の新たな科学的評価法の研究開発や神経発達症の養育者のためのペアレントトレーニングプログラム研究にも取り組んだ。

【本学の理念との関係】

【情動認知発達研究部門】

福井大学「子どものこころの発達研究センター」として、子どもの脳活動を可視化し、子どものこころの問題を解明し、子どもたちが健やかに暮らせるために治療・支援するための研究活動・社会貢献を行うことを目的としている。

【脳機能発達研究部門】

我々の研究内容は、本学中期計画の「神経系、免疫系などを対象として (中略) 高次生体システムの発達・構築とその維持に関わるメカニズムの解明に関する研究を行う」の実現に他ならず、本学の理念の具現化にあたる。

【発達支援研究部門】

MR I等の生体画像技術を基盤とする画像解析法、生体機能解析法等の開発、及びそれらを用いた生命現象の解明並びに臨床医学への応用に関する世界的に優れた研究を行い、本学の理念の具現化にあたる。

3. 研究実績

| 区分 | 総数 | | インパクトファクター (うち原著のみ) | |
|--------|----------------|--------|---------------------|------------------|
| | 2016~2021年分 | 2022年分 | 2016~2021年分 | 2022年分 |
| 和文原著論文 | 6 | 4 | — | — |
| 英文論文 | ファーストオーサー | 8 | 34.212(34.212) | 35.679(35.679) |
| | コホort デイック オサー | 10 | 36.289(36.289) | 63.917(63.917) |
| | その他 | 20 | 107.515(102.087) | 37.002(37.002) |
| | 合計 | 31 | 147.836(142.408) | 103.823(103.823) |

(A) 著書・論文等

(1) 英文：著書等

a. 著書

b. 著書 (分担執筆)

2298149

Kimura Y, Hamatani S, Matsumoto K.: Section C: International aspects.: Martin C, Patel V, Preedy V.: Bipolar disorder and cognitive-behavioral therapy in Japan., Elsevier, 20230407, 978-0-443185-56-4

2298150

Iwata K, Xie MJ, Paul C, Guest, Hirai T, Matsuzaki H.: Multiplex Biomarker Techniques: Measurement of Mitochondrial Respiration in Cryopreserved Human PBMCs., Humana New York, NY・Springer, 321-332, 20220716, 978-1-0716-2394-7

2298151

Nishitani S.: Chapter 16 - Capturing the epigenome: Differences among blood, saliva, and brain samples.: Nagy Youssef: Epigenetics of Stress and Stress Disorders, Elsevier, 20220218, 978-0-128-23039-8

c. 編集・編集・監修

(2) 英文：論文等

a. 原著論文 (審査有)

2298152

Mizuno Y, Cai W, Supekar K, Makita K, Takiguchi S, Silk TJ., Tomoda A, Menon V.: Methylphenidate enhances spontaneous fluctuations in reward and cognitive control networks in children with attention-deficit/hyperactivity disorder., Biol. Psychiatry Cogn. Neurosci. Neuroimaging, 8(3), 271-280, 20230306, DOI: 10.1016/j.bpsc.2022.10.001., #6.05

2298153

Nishitani S, Isozaki M, Yao A, Higashino Y, Yamauchi T, Kidoguchi M, Kawajiri S, Tsunetoshi K, Neishi H, Imoto H, Arishima H, Kodera T, Fujisawa TX, Nomura S, Kikuta K, Shinozaki G, Tomoda A.: Cross-tissue correlations of genome-wide DNA methylation in Japanese live human brain and their blood, saliva, and buccal epithelial tissues., Transl. Psychiatr., 13(1), 72, 20230227, DOI: 10.1038/s41398-023-02370-0., #7.989

2298154

Murata E, Yoshizaki A, Fujisawa TX, Tachibana M, Taniike M, Mohri I.: What daily factors affect the sleep habits of Japanese toddlers?, J Clin Sleep Med, Online ahead of print., 20230215, DOI: 10.5664/jcsm.10508., #4.324

2298155

Yoshizaki A, Murata E, Yamamoto T, Fujisawa TX, Hanaie R, Hirata I, Matsumoto S, Mohri I, Taniike M.: Improving Children's Sleep Habits Using an Interactive Smartphone App: Community-Based Intervention Study., JMIR mHealth uHealth, 11, e40836, 20230210, DOI: 10.2196/40836., #4.948

2298156

Koizumi M, Tomoda A, Takiguchi S, Kosaka H.: Impact of stable environments on maltreated children., Pediatr Int., 65(1), e15443, 202301, DOI: 10.1111/ped.15443., #1.617

2298157

Takiguchi S, Makita K, Fujisawa TX, Nishitani S, Tomoda A: Effects of intranasal oxytocin on neural reward processing in children and adolescents with reactive attachment disorder: a randomized controlled trial., Front Child Adolesc Psychiatry, 1, 1056115, 20230110, DOI: 10.3389/frcha.2022.1056115.

2298158

Makino T, Suzuki F, Nishiyama T, Ishibashi S, Nakamichi H, Iida T, Shimada S, Tomari S, Imanari E, Higashi T, Fukumoto S, Kurata S, Mizuno Y, Kimura T, Kuru Y, Morimoto T, Kosaka H.: Psychometrics of the Kiddie Schedule for Affective Disorders and Schizophrenia Present and Lifetime Version for DSM-5 in Japanese outpatients., Int. J. Methods Psychiatr. Res., online ahead of print, e1957, 20230102, DOI: 10.1002/mpr.1957., #4.182

2298159

Xie MJ, Yagi H, Iguchi T, Yamazaki H, Hanamura K, Matsuzaki H, Shirao T, Sato M.: Phldb2 is essential for regulating hippocampal dendritic spine morphology through drebrin in an adult-type isoform-specific manner., Neurosci. Res., 185, 1-10, 202212, DOI: 10.1016/j.neures.2022.09.010, #2.904

2298160

Cheong Y, Nishitani S, Yu J, Habata K, Kamiya T, Shiotsu D, Omori IM, Okazawa H, Tomoda A, Kosaka H, Jung M: The effects of epigenetic age and its acceleration on surface area, cortical thickness, and volume in young adults, Cereb Cortex, 32(24), 5654-5663, 20221208, DOI: 10.1093/cercor/bhac043, #4.861

2298161

Hamatani S, Hiraoka D, Makita K, Tomoda A, Mizuno Y: Longitudinal impact of COVID-19 pandemic on mental health of children in the ABCD study cohort., Sci. Rep., 12(1), 19601, 20221115, DOI: 10.1038/s41598-022-22694-z., #4.997

2298162

Shirayama Y, Matsumoto K, Ozone F, Hara A, Guan S, Hamatani S, Muneoka K, Sato K, Okada A, Yokokawa T.: The Lack of Alterations in Metabolites in the Medial Prefrontal Cortex and Amygdala, but Their Associations with Autistic Traits, Empathy, and Personality Traits in Adults with Autism Spectrum Disorder: A Preliminary Study., J. Autism Dev. Disord., online ahead of print, 20221017, DOI: 10.1007/s10803-022-05778-7., #4.345

2298163

Nagahashi-Araki M, Tasaka M, Takamura T, Eto H, Sasaki N, Fujita W, Miyazaki A, Morifuji K, Honda N, Miyamura T, Nishitani S: Endogenous oxytocin levels in extracted saliva elevates during breastfeeding correlated with lower postpartum anxiety in primiparous mothers., BMC Pregnancy Childbirth, 22(1), 711, 20220917, DOI: 10.1186/s12884-022-05026-x, #3.105

2298164

Umeda N, Hirai T, Ohto-Nakanishi T, Tsuchiya KJ, Matsuzaki H.: Linoleic acid and linoleate diols in neonatal cord blood influence birth weight., Front. Endocrinol. (Lausanne), 13, 986650, 20220825, DOI: 10.3389/fendo.2022.986650, #6.055

2298165

Hamatani S, Matsumoto K, Ishibashi T, Shibukawa R, Honda Y, Kosaka H, Mizuno Y, Andersson G.: Development of a culturally adaptable internet-based cognitive behavioral therapy for Japanese women with bulimia nervosa., Front. Psychiatry, 13, 942936, 20220823, DOI: 10.3389/fpsy.2022.942936, #5.435

2298166

Mizuno Y, Cai W, Supekar K, Makita K, Takiguchi S, Tomoda A, Menon V.: Methylphenidate remediates aberrant brain network dynamics in children with attention-deficit/hyperactivity disorder: A randomized controlled trial, Neuroimage., 257, 119332, 20220815, DOI: 10.1016/j.neuroimage.2022.119332, #7.4

2298167

Kuniishi H, Nakatake Y, Sekiguchi M, Yamada M.: Adolescent social isolation induces distinct changes in the medial and lateral OFC-BLA synapse and social and emotional alterations in adult mice., Neuropsychopharmacology., 47(9), 1597-1607, 20220801, DOI: 10.1038/s41386-022-01358-6, #8.304

2298168

Saito DN, Fujisawa TX, Yanaka HT, Fujii T, Kochiyama T, Makita K, Tomoda A, Okazawa H.: Development of attentional networks during childhood and adolescence: A functional MRI study., Neuropsychopharmacol Rep., 42(2), 191-198, 202206, DOI: 10.1002/npr2.12246

2298169

Yamaguchi D, Hiratani M, Matsuura N, Fujisawa TX, Takiguchi S, Fujioka T, Kono T, Ishizaka I, Tomoda A.: The influence of intelligence and cognitive abilities on the reading ability of Japanese students with developmental disorders., Brain Dev., 44(6), 361-371, 202206, DOI: 10.1016/j.braindev.2022.02.006, #2.272

- 2298170** Ishibashi S, Ide S, Suzuki F, Teo A, Nagata T, Kosaka H.: Development of the Japanese version of the Coronavirus Anxiety Scale and Obsession with COVID-19 Scale. *Psychiatry Clin Neurosci*, 76(4), 124-125, 202204, DOI: 10.1111/pcn.13333, #12.145
- 2298171** Yao A, Shimada K, Kasaba R, Tomoda A.: Beneficial Effects of Behavioral Parent Training on Inhibitory Control in Children With Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder: A Small-Scale Randomized Controlled Trial. *Front. Psychiatry*, 13, 859249, 20220427, DOI: 10.3389/fpsy.2022.859249, #5.435
- 2298172** Iwahori M, Oshiyama C, Matsuzaki H.: A quasi-experimental controlled study of a school-based mental health programme to improve the self-esteem of primary school children. *Hum. Soc. Sci. Commun.*, 9(1), 148, 20220427, DOI: 10.1057/s41599-022-01156-x, #2.731
- 2298173** Shimabukuro S, Daley D, Endo T, Harada S, Tomoda A, Yamashita Y, Oshio T, Guo B, Ishii A, Izumi M, Nakahara Y, Yamashita K, Yamamoto K, Yao A, Tripp G.: The effectiveness and cost-effectiveness of Well Parent Japan for Japanese mothers of children with ADHD: Protocol for a randomized controlled trial. *JMIR Res. Protoc.*, 11(4), e32693, 20220419, DOI: 10.2196/32693, #0.58
- 2298174** Matsumoto K, Hamatani S, Shimizu E, Käll A, Andersson G. Y, Sutoh C, Shimizu E.: Impact of post-COVID conditions on mental health: a cross-sectional study in Japan and Sweden. *BMC Psychiatry*, 22(1), 237, 20220404, DOI: 10.1186/s12888-022-03874-7, #4.144
- b. 原著論文 (審査無)**
- c. 原著論文 (総説)**
- d. その他研究等実績 (報告書を含む)**
- 2298175** Matsuzaki H, Fukunaga K.: Editorial: Environmental Risk Factors in Autism Spectrum Disorder. *Front. Psychiatry*, 13, 978489, 20220823, DOI: 10.3389/fpsy.2022.978489, #5.435
- e. 国際会議論文**
- 2298176** Matsuzaki H, Umeda N, Hirai T, Tsuchiya KJ.: Linoleic acid and linoleate diols in neonatal cord blood influence birth weight. *Free Radic. Biol. Med.*, 192(S1), 88, 20221101, DOI: 10.1016/j.freeradbiomed.2022.10.154, #8.101
- 2298177** Hirayama A, Matsuzaki H.: Clinical Significance of Serum Multiple Radical Scavenging Activity Assay (MULTIS) in a Diagnostic Screening of Autism Spectrum Disorders. *Free Radic. Biol. Med.*, 192(S1), 39-40, 20221101, DOI: 10.1016/j.freeradbiomed.2022.10.055, #8.101
- 2298178** Mizuno Y, Cai WD, Supekar K, Makita K, Takiguchi S, Tomoda A, Menon V.: Methylphenidate Enhances Spontaneous Fluctuations in Reward and Cognitive Control Networks in Children With Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder: A Randomized Control Trial. *Biol. Psychiatry*, 91(9), S110, 20220501, #12.81
- (3) 和文: 著書等**
- a. 著書**
- b. 著書 (分担執筆)**
- 2298179** 土屋賢治, 松崎秀夫: 4章: D0HaDの視点からみた疾患発生機序と先制医療 : 6. 神経発達症群 (発達障害), 金原出版, 105-110, 20230510, 978-4-307-17079-6
- 2298180** 松崎秀夫: 総論第4章: 橋渡し研究: 精神医学領域の論文を読みこなすキーワード100!, 新興医学出版社, 20-21, 20230120, 978-4-8800-2886-6
- 2298181** 山下雅俊, 水野賢史: 第8章 ADHDの脳画像—可視化される脳機能偏り—: 鷺見聡: 発達障害のサイエンス 支援者が知っておきたい医学・生物学的基礎知識, 日本評論社, 20221216, 978-4-535985-27-8
- 2298182** 友田明美: マルトリートメント (マルトリ) と子どもの脳に与える影響: 市町村児童虐待防止と支援のあり方の研究会: 市町村における児童虐待防止と支援のあり方, 岩崎学術出版社, 100-104, 20221124, 978-4-753-31214-6
- 2298183** 友田明美: 2.6子ども虐待と脳科学の理解: 発達障がい—病態から支援まで—, 朝倉書店, 80-84, 20221001, 978-4-254-30125-0
- c. 編集・編集・監修**
- 2298184** 松崎秀夫: 子どものこころと脳の発達 第13巻1号, 国際文献社・連合小児発達学研究所, 20221015
- 2298185** 松崎秀夫: 発達障がい—病態から支援まで—, 2病態, 朝倉書店, 36-90, 20221001, DOI: 978-4-254-30125-0
- (4) 和文: 論文等**
- a. 原著論文 (審査有)**
- 2298186** 杉山登志郎, 堀田 洋, 涌澤圭介, 和田 浩平, 鈴木 太, 森本武志, 椎野智子, 友田明美: TSプロトコルによる複雑性PTSD患者へのRCTによる治療研究, 明治安田こころの健康財団研究助成論文集, 56, 38-48, 202211
- 2298187** 篠崎志美, 小坂浩隆, 杉山登志郎: トラウマ体験の言語化に困難をもつPTSDに対する身体感覚に焦点化した簡易型処理の試み, *精神科治療学*, 37(11), 1275-1279, 202211 (症例報告)
- 2298188** 篠崎 志美, 友田 明美: 小児腎移植に関連するPTSDに対してEMDRが奏功した症例, *EMDR研究*, 14(1), 66-75, 202205 (症例報告)
- 2298189** 杉山登志郎, 堀田洋, 涌澤圭介, 和田浩平, 鈴木太, 森本武志, 椎野智子, 友田明美: 新たな簡易型トラウマ処理プロトコルによる複雑性PTSD患者へのランダム化比較試験による治療研究, *EMDR研究*, 14(1), 56-65, 20220501

業績一覧

b. 原著論文 (審査無)

c. 総説

2298190

水野賀史: 神経発達症と脳画像 病態に基づく客観的な診断を目指して, 子どもの心とからだ日本小児心身医学会雑誌, 31(4), 537-540, 202302

2298191

山下雅俊, 水野賀史: ADHDのMRI研究—ADHDの神経生物学的基盤の解明に向けて—, 子どものこころと脳の発達, 13(1), 45-51, 20221015

d. その他研究等実績 (報告書を含む)

2298192

友田明美: マルトリートメント (マルトリ) 子どものこころと脳の発達, ビオスbios, 28(1), 7-8, 20230301

2298193

友田明美: 子どもと家族への心のケア レジレント小児科医が伝える普遍的なこと 傷ついた親子に幸せを 「とも育て」による「マルトリ予防」の普及に向けて, 小児科診療, 86(1), 11-16, 20230101, DOI: 10.34433/pp.0000000004

2298194

松村菜々子, 伊達岡五月, Kawata NYS, 友田明美: コロナ禍における神経発達症児の養育者支援について, 外来小児科, 25(4), 480-485, 202212

2298195

杉山登志郎: 発達障害, 心身症, 精神疾患 反応性愛着障害, 小児内科, 54(増刊号: 小児疾患診療のための病態生理3改訂第6版), 694-697, 20221201

2298196

友田明美: マルトリートメントが脳に与える影響と回復へのアプローチ, 麻酔, 71(増刊), S73-S78, 20221120

2298197

鈴木太: 『『やせる=幸せになれる』の価値観から解放されたい』—『やせる=幸せになれる』『太る=不幸になる, 嫌われる』といった二分思考に対し, どのように考え対応すべきか—, 精神科治療学, 37(増刊号: 精神科臨床ライブ), 144-147, 20221001

2298198

杉山登志郎: 逆境に強い子—レジリエンスをめぐって, そだちの科学, (39), 35-49, 20221001

2298199

友田明美: 子どもの脳とこころを傷つけない子育てとは 日常に潜むマルトリートメント(避けたい子育て)が脳におよぼす影響, 岩手県立病院医学会雑誌, 62(1), 54-55, 20220729

2298200

松本一記, 濱谷沙世: 最先端医療の今 日本の遠隔認知行動療法, Medical Science Digest, 48(7), 338-339, 20220725

2298201

友田明美: 『マルトリ予防』と『とも育て』の重要性②, 月刊キリスト教保育, (640), 14-17, 20220701

2298202

杉山登志郎: エキスパートからの学び 発達障害支援のこれまでとこれから, 小児内科, 54(7), 1070-1075, 20220701, DOI: 10.24479/pm.0000000263

2298203

友田明美: 『マルトリ予防』と『とも育て』の重要性①, 月刊キリスト教保育, (639), 14-16, 20220601

2298204

友田明美: 【生活している地域で発達障がい児者の支援をするために—気づきから支援のネットワークへ—】マルトリートメント(マルトリ)が脳に与える影響と回復へのアプローチ, 発達障害研究, 44(1), 17-22, 20220531

2298205

友田明美: マルトリートメント (マルトリ) が脳に及ぼす影響, PERINATAL CARE, 2022夏季増刊, 36-42, 20220531

2298206

鈴木太: 疾患各論 摂食障害 神経症やせ症, 精神医学, 64(5), 703-707, 20220501

2298207

鈴木太: 神経症やせ症, 精神医学, 64(5), 703-707, 20220501, DOI: 10.11477/mf.1405206646

2298208

杉山登志郎: 精神医学の診断をめぐって, そだちの科学, (38), 8-18, 20220401

e. 国際会議論文

(B) 学会発表等

(1) 国際学会

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

2298209

Mizuno Y: Child Developmental MRI Project Development of Brain MRI Database for Children with Neurodevelopmental Disorders, The 4th International Symposium for CRNACDD 2023, 吹田市、ハイブリッド開催, 20230218

2298210

Tomoda A.: The Effect of Childhood Maltreatment on Brain Development: Sensitive Periods and Resilience, Neuroscience2022, サテライトシンポジウム「U.S.—Japan Brain Research Cooperative Program (BRCP) — Networking Session」, ハイブリッド開催 (U.S.A.), 20221114

c. 一般講演 (口演)

2298211

Nishitani S, Tomoda A.: Epigenetic modifications regulating prosociality and its influence of child maltreatment., 16th International Neuroscience and Biological Psychiatry Conference - ISBS Regional Meeting (Asia) "Stress and Behavior", 山口県宇部市 (online and offline), 20220903

d. 一般講演 (ポスター)

- 2298212** Iwasaki S, Yamashita M, Sekiyama K: How do parenting style, and children's lifestyle relate to young children's curiosity?, 22nd PECERA Annual Conference, WEB開催, 20220710
- 2298213** Mizuno Y, Cai W, Supekar K, Makita K, Takiguchi S, Tomoda A, Menon V.: Methylphenidate enhances spontaneous fluctuations in reward and cognitive control networks in children with attention-deficit/hyperactivity disorder: a randomized control trial, Society of Biological Psychiatry 2022 Annual Meeting, WEB開催, 20220429, Biol Psychiatry, 91(9 Supplement), S110
- 2298214** Matsuzaki H: Application of multiple radical scavenging activity assay (multis) to diagnostic screening for children with autism spectrum disorders., DOHaD 2022 World Congress, カナダバンクーバー, 20220829
- 2298215** Hirayama A, Matsuzaki H.: Clinical Significance of Serum Multiple Radical Scavenging Activity Assay (MULTIS) in a Diagnostic Screening of Autism Spectrum Disorders, SFRBM2022, U.S.A オールランド, 20221116
- 2298216** Matsuzaki H, Umeda N, Hirai T, Tsuchiya KJ.: Linoleic acid and linoleate diols in neonatal cord blood influence birth weight, SFRBM2022, U.S.A オールランド, 20221118
- 2298217** Hiraoka D, Kawanami A, Sakurai K, Mori C.: Within-Person Relationships between Mother-Infant Bonding and Postpartum Depressive Symptoms: A Birth Cohort Study, SRCD 2023 Biennial Meeting, Salt Lake City, USA., 20230323

e. 一般講演

f. その他

(2) 国内学会 (全国レベル)

a. 招待・特別講演等

- 2298218** 友田明美: マルトリートメントが脳に与える影響と回復へのアプローチ, 日本麻酔科学会 第69回学術集会, 小児/招待講演 (国内), ハイブリット配信 (神戸市), 20220616, 麻酔, 71 (2022年11月増刊号), 20221125
- 2298219** 友田明美: 家族支援-発達障害・児童虐待の神経生物学的観点と精神科医の役割-, 第118回日本精神神経学会学術集会, 教育講演13, 福岡市・WEB開催, 20220618, 118回学術総会抄録集, 124(4), 203, 202208
- 2298220** 友田明美: マルトリートメントによる行動異常と神経生物学的所見について, 第64回日本小児神経学会学術集会, 教育講演10, 高崎市, オンデマンド配信, 20220603, 脳と発達, 54(Supplement), S96, 20220708
- 2298221** 友田明美: 子どものこころの発達と脳科学一けが防止に向けて, 第35回日本臨床整形外科学会学術集会, スポーツ医懇談会ランチョンセミナー, 徳島市, 20220718
- 2298222** Tomoda A.: The Effect of Childhood Maltreatment on Brain Development, NEURO2022, ランチョンセミナー「Introduction of Japan-U.S. Brain Research Cooperative Program (BRCP)」, ハイブリット開催 (那覇市), 20220630
- 2298223** 友田明美: 「マルトリ予防®」と「とも育て®」～神経発達症児の良い生活習慣～, 第13回日本子ども虐待医学会学術集会, ハイブリット配信 (仙台市), 20220723
- 2298224** 友田明美: 子どもの脳を傷つけない子育て, 清流の国ぎふ オレンジリボン 児童虐待防止講演会(岐阜県健康福祉部), 202211
- 2298225** 友田明美: 虐待(マルトリートメント)が子どもの脳に及ぼす影響, 第42回日本脳神経外科コンgres総会, プレナリーセッション4「小児」, ハイブリット開催(大阪市), 20220513
- 2298226** 友田明美: マルトリートメント(不適切な養育)と社会的孤立, 日本精神衛生学会 第38回大会, 市民公開講座, 神戸市, オンデマンド配信, 20221029

b. シンポジスト・パネリスト等

- 2298227** 濱谷沙世: 思春期の精神疾患に対する遠隔認知行動療法, 第64回日本小児神経学会学術集会, 企画シンポジウム4: ニューノーマル時代の心理社会的医療と教育, 高崎市, オンデマンド配信, 20220605, 脳と発達, 54(Supplement), S114, 20220708
- 2298228** 水野賀史: MRIを用いたADHDの介入脳画像研究—メチルフェニデートのTriple networkに対する影響—, 第49回日本脳科学会, 子どものこころを救う: 介入研究の試み, 久留米市, 20221203
- 2298229** 濱谷沙世, 水野賀史: 神経性過食症に対するインターネット認知行動療法 の多機関ランダム化比較試験: プロトコル, 第25回日本摂食障害学会学術集会, オンライン, 20221016
- 2298230** 濱谷沙世, 水野賀史: 自閉スペクトラム症幼児の不安症に対して認知行動療法が有効性を示した一例., 第20回日本小児心身医学会東海北陸地方会, オンライン, 20230305
- 2298231** 水野賀史: 神経発達症と脳画像—病態に基づく客観的な診断を目指して—, 第40回日本小児心身医学会, Review2021「小児心身医学研究の知見」, WEB開催, 20220924
- 2298232** 國石洋, 山田光彦: 思春期の社会経験剥奪は眼窩前頭皮質-扁桃体シナプス機能と社会性・情動行動の異常を引き起こす, 第96回日本薬理学会年会, 中枢神経疾患リスク因子あるいは防御因子としての発達期環境と神経回路形成, 横浜市, 20221130
- 2298233** 國石洋, 山田光彦, 松崎秀夫: 思春期の社会経験剥奪による内側・外側眼窩前頭皮質-扁桃体投射における経路選択的なシナプス機能の変化と社会性・情動行動の制御, 第128回日本解剖学会, 行動を制御する特異的神経回路とその可塑性メカニズム (第54回神経解剖懇話会), 仙台市, 20230319
- 2298234** 水野賀史: 米国におけるコロナ禍による子どもへの心理発達面での影響, 第128回日本小児精神神経学会, 日本におけるコロナ禍による子どもへの心理発達面での影響, 名古屋市, オンデマンド配信, 20221113
- 2298235** 西谷正太: 社会性とエビジュネティクス, 日本社会心理学第63回大会, ワークショップ「学際的な社会心理学の構築を目指して—若手研究者のための教育講演—」, 京都市, 20220915

業績一覧

c. 一般講演（口演）

2298236

濱谷沙世, 水野賢史: COVID-19パンデミック中におけるオンライン認知行動療法の活用, 第40回日本小児心身医学会学術集会, WEB開催, 20220924

2298237

岩堀美雪, 押山千秋, 松崎秀夫: 小学生の自尊心を向上させるための学校を拠点としたメンタルヘルス・プログラムの準実験的対照研究, 日本脳科学会, 久留米市, 20221204

2298238

國石 洋, 竹内絵理, 関口正幸, 山田光彦, 松崎秀夫: マウス耳介神経刺激による文脈的恐怖消去学習と内側前頭前野シナプス伝達への効果, 日本脳科学会, 久留米市, 20221203

2298239

平井孝治, 梅田尚子, 土屋賢治, 西村倫子, 松崎秀夫: 自閉症特性を予測する臍帯血中の多価不飽和脂肪酸代謝物, 日本脳科学会, 久留米市, 20221203

2298240

梅田尚子, 平井孝治, 土屋賢治, 松崎秀夫: 新生児臍帯血中のリノール酸とリノール酸ジオールは出生体重に影響する, 日本脳科学会, 久留米市, 20221204

2298241

Kawata NYS, Nishitani S, Yao A, Mizuno Y, Takiguchi S, Mizushima S, Hamamura S, Makita K, Fujisawa T, Okazawa H, Tomoda A: Atypical structural brain development on the anterior cingulate cortex in neglect children, 第13回日本子ども虐待医学会学術集会, ハイブリット配信（仙台市）, 20220724

d. 一般講演（ポスター）

2298242

濱谷沙世, 平岡大樹, 牧田快, 水野賢史: COVID-19パンデミックが子どものメンタルヘルスに及ぼす影響—大規模横断データを用いた検討—, 第64回日本小児神経学会学術集会, 高崎市, オンデマンド配信, 20220604, 脳と発達, 54(Supplement), S362, 20220708

2298243

謝敏かく, 岩田圭子, 石川保幸, 村田航志, 深澤有吾, 松崎秀夫: NSF欠損マウスは自閉症様な異常を示す, NEURO2022, 沖縄県宜野湾市, 20220630

2298244

國石洋, 竹内絵理, 関口正幸, 山田光彦: マウス耳介迷走神経電気刺激の文脈的恐怖消去学習に対する効果, NEURO2022, 沖縄県宜野湾市, 20220630

2298245

臼井紀好, 仲間葉々子, 宮内波奈, 土井美幸, 入江浩一郎, 小山佳久, 中村雪子, 松崎秀夫, 島田昌一: 大脳皮質発達における自閉スペクトラム症関連遺伝子の役割, NEURO2022, 沖縄県宜野湾市, 20220630

2298246

平岡大樹・牧田快・榊原信子・倉田佐和・森岡茂己・折坂誠・吉田好雄・友田明美: 子育て中の母親における乳児の泣き声に対する脳活動の変化, 日本赤ちゃん学会第22回学術集会, ハイブリット開催（栃木県下野市）, 20220702

2298247

平岡大樹・牧田快・榊原信子・倉田佐和・森岡茂己・折坂誠・吉田好雄・西谷正太・友田明美: DNAメチル化と乳児泣き声に対する脳活動の関連, 日本心理学会第86回大会, ハイブリット開催（東京）, 20220909

2298248

松本一記, 濱谷沙世, 高橋純平, 須藤千尋, 牧野拓也, 鈴木太, 小坂浩隆, 新野青那, 井階友貴, 林寛之, 友田明美, 清水栄司: 通常治療と比較した強迫性のガイド付きインターネット認知行動療法の有効性: 他施設ランダム化比較試験, 第14回日本不安症学会学術大会, 浜松町, 20220521

2298249

平岡大樹, 川波亜紀子, 櫻井健一, 森千里: 産後の母子ボンディングとうつ症状の個人内運動過程の解明—妊娠中のうつ症状および乳児の気質を含めたランダム切片交差遅延パネルモデル—, 日本発達心理学会第34回大会, 茨木市, 20230304

e. 一般講演

f. その他

(3) 国内学会（地方レベル）

a. 招待・特別講演等

2298250

友田明美: 家族支援—マルトリートメントの神経生物学的観点と小児科医の役割—, 第57回 中部日本小児科学会, 教育講演, Web開催（リアル配信）, 20220821

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(4) その他の研究会・集会

a. 招待・特別講演等

2298251

鈴木太: 青年期摂食障害の家族療法, 第23回日本小児精神医学研究会教育セミナー, WEB開催, 20220821

2298252

友田明美: 子どもの脳を傷つけない子育て—マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ—, 兵庫県保険医協会 薬科部研究会, 20220709

2298253

友田明美: 多職種連携による遠隔心理支援の試み: 「マルトリ予防®」のための「とも育て®」, Janssen Pro® Webセミナー, 20220623

2298254

西谷正太: 家族支援—マルトリートメントの神経生物学的観点と小児科医の役割—, 令和4年度児童虐待防止啓発講演会, 神奈川県座間市, 20221118

2298255

友田明美: 幼少期の環境が子どもの発達に及ぼす影響—マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ—, 第576回北九州地区小児科医会学術講演会・第52回北九州子どものこころ懇話会合同例会, 北九州市, オンデマンド配信, 20220616

b. シンポジスト・パネリスト等

業績一覧

c. 一般講演（口演）
2298256

國石洋：離乳後の社会経験剥夺によるマウス眼窩前頭皮質-扁桃体回路の機能的変化，第14回自閉症学研究会，東京，20220724

2298257

平岡大樹：乳児の泣き声に対する反応の縦断的变化，日本学術振興会 令和4年度育志賞研究発表会，Web開催，20230313

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(C) 特許等

| 区分 | 内容（発明の名称） | 発明者又は考案者 |
|----|-----------|----------|
|----|-----------|----------|

(D) その他業績

4. グラント取得

(A) 科研費・研究助成金等

| 区分 | プロジェクト名 | 研究課題名 | 代表者名 | 分担者名 | 研究期間 | 金額（配分額） |
|---------------|-------------------------|--|----------------|--|-------------------|-------------|
| 区分 | 研究種目 | 課題名 | 代表者名 | 分担者名 | 研究期間 | 金額（配分額） |
| 文部科学省科学研究費補助金 | 若手研究 | A brain imaging study to investigate the neural correlates of brain structural and functional connectivity in relation auditory abilities in | Natasha Kawata | | 20220401-20240331 | ¥3,640,000 |
| 文部科学省科学研究費補助金 | 基盤研究(C) | ドーパミン受容体の異常に着目した新たな統合失調症モデルの確立 | 謝 敏カク | 松崎 秀夫, 村田 航志 | 20210401-20240331 | ¥1,300,000 |
| 文部科学省科学研究費補助金 | 特別研究員奨励費 | 社会性を制御する前頭葉-扁桃体シナプスの発達の臨界期とその神経基盤の解明 | 國石 洋 | | 20210401-20240331 | ¥1,560,000 |
| 文部科学省科学研究費補助金 | 若手研究 | 幼少期ストレスモデルマウスに対する前頭葉ニューロモジュレーションの改善効果検討 | 國石 洋 | | 20220401-20250331 | ¥1,820,000 |
| 文部科学省科学研究費補助金 | 若手研究 | 中枢性疲労を伴う不登校生徒のトリプトファン動態と白質形態変化の解明 | 山下 雅俊 | | 20200401-20230331 | ¥1,170,000 |
| 文部科学省科学研究費補助金 | 若手研究 | 過食症への遠隔認知行動療法の有効性及び費用対効果の検討 | 濱谷 沙世 | | 20180401-20220331 | ¥0 |
| 文部科学省科学研究費補助金 | 基盤研究(C) | 機械学習を用いた神経ネットワークによるADHDのサブタイプ診断の開発 | 水野 賀史 | | 20210401-20240331 | ¥910,000 |
| 文部科学省科学研究費補助金 | 基盤研究(B) | 子どもの神経発達症・摂食障害へのセルフヘルプ遠隔認知行動療法と客観的評価法の開発 | 濱谷 沙世 | 平野 好幸, 水野 賀史, 松本 一記, 小坂 浩隆 | 20220401-20250331 | ¥8,580,000 |
| 文部科学省科学研究費補助金 | 基盤研究(C) | アロペレンティング状況が子の社会性発達および養育者のメンタルヘルスに及ぼす影響 | 藤澤 隆史 | | 20180401-20230331 | ¥390,000 |
| 文部科学省科学研究費補助金 | 挑戦的研究（萌芽） | ネグレクト環境が子どものこころに与える影響の客観的マーカーの開発研究 | 友田 明美 | | 20210709-20230331 | ¥3,770,000 |
| 文部科学省科学研究費補助金 | 基盤研究(C) | マルトリートメント児の脳画像エピソード解析によるバイオマーカーの同定 | 西谷 正太 | | 20200401-20230331 | ¥520,000 |
| 文部科学省科学研究費補助金 | 基盤研究(A) | 愛着障害の新たな客観的診断・支援法の開発—少子化社会を克服するための戦略— | 友田 明美 | 水野 賀史, 藤澤 隆史 | 20190401-20230331 | ¥9,880,000 |
| 文部科学省科学研究費補助金 | 特別研究員奨励費 | 乳児の泣き声に対する反応の養育者内変容メカニズムの解明 | 平岡 大樹 | | 20200401-20230331 | ¥1,690,000 |
| 文部科学省科学研究費補助金 | 若手研究 | 妊娠中から産後のうつ症状の継続において乳児の泣き声が果たす役割の解明 | 平岡 大樹 | | 20210401-20240331 | ¥1,430,000 |
| 文部科学省科学研究費補助金 | 国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(A)） | 過去の養育状況が子の認知・社会性発達に及ぼす影響とそのエピソード因子の同定 | 藤澤 隆史 | | 20211005-20240331 | ¥0 |
| 文部科学省科学研究費補助金 | 国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(A)） | 周産期うつ傾向の発生・継続に関する心理・遺伝・神経機構の解明 | 平岡 大樹 | | 20220407-20250331 | ¥11,700,000 |
| 文部科学省科学研究費補助金 | 基盤研究(C) | 子どものための診断アセスメントとサービス改善プロジェクト | 鈴木 太 | 森本 武志, 宮脇 大, 牧野 拓也, 小坂 浩隆, 木村 拓磨, 岡田 俊 | 20190401-20240331 | ¥2,080,000 |

業績一覧

| 区分 | 機関名 | 課題名 | 研究者名 | 研究期間 | 契約金額 |
|------|-------------------|--|-------------|-------------------|------------|
| 共同研究 | 学校法人沖繩科学技術大学院大学学園 | ADHDヘアレントトレーニング研究：地域実践に向けたマルチサイト無作為化比較試験 | 友田 明美 | 20190601-20230331 | ¥1,368,750 |
| 共同研究 | 国立大学法人大阪大学 | マウス腎系球体上皮細胞及び腎尿管上皮細胞におけるNsf遺伝子機能の解明 | 松崎 秀夫, 謝 敏珏 | 20210401-20260331 | ¥0 |
| 共同研究 | 学校法人都築第一学園横浜薬科大学 | PET所見に基づく自閉症・シナス膜移行異常仮説の検証 | 松崎 秀夫, 謝 敏珏 | 20200225-20240331 | ¥0 |

| 区分 | 機関名 | 課題名 | 研究者名 | 研究期間 | 契約金額 |
|------|--------------------|---------------------------------------|----------------------------|-------------------|-------------|
| 受託研究 | 国立研究開発法人科学技術振興機構 | 被虐待児、虐待加害、世代間連鎖ゼロ化社会 | 友田 明美, 西谷 正太, 藤澤 隆史, 平岡 大樹 | 20220401-20221222 | ¥0 |
| 受託研究 | 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 | 被虐待児の脳・エピゲノムに刻まれた傷跡解析による子ども虐待予防・介入法開発 | 西谷 正太, 友田 明美 | 20220401-20230331 | ¥12,355,817 |

(B) 奨学寄附金

| | |
|------|------------|
| 受入件数 | 5 |
| 受入金額 | ¥8,500,000 |

5. その他の研究関連活動

(A) 学会開催等

| 区分 | 主催・共催の別 | 学会名 | 開催日 | 開催地 |
|----|---------|-----|-----|-----|
|----|---------|-----|-----|-----|

(B) 学会の実績

| 学会の名称 | 役職 | 氏名 |
|---|-------------------------|-------|
| International DOHaD Society | 一般会員 | 松崎 秀夫 |
| 日本臨床精神神経薬理学会 | 一般会員 | 松崎 秀夫 |
| Society for Redox Biology and Medicine | 一般会員 | 松崎 秀夫 |
| Society for Neuroscience | 一般会員 | 松崎 秀夫 |
| 日本神経化学学会 | 評議員 | 松崎 秀夫 |
| International Society for Autism | 一般会員 | 松崎 秀夫 |
| 日本脳科学学会 | 評議員 | 松崎 秀夫 |
| 日本生物学的精神医学学会 | 一般会員 | 松崎 秀夫 |
| 日本DOHaD学会 | 代議員 | 松崎 秀夫 |
| 日本酸化ストレス学会 | 代議員 | 松崎 秀夫 |
| 日本ミトコンドリア学会 | 一般会員 | 松崎 秀夫 |
| 日本児童青年精神医学学会 | 一般会員 | 松崎 秀夫 |
| Society for Neuroscience | 一般会員 | 謝 敏カク |
| 日本神経化学学会 | 一般会員 | 謝 敏カク |
| 日本解剖学会 | 一般会員 | 謝 敏カク |
| 日本神経科学学会 | 一般会員 | 謝 敏カク |
| 日本薬理学会 | 一般会員 | 國石 洋 |
| 日本神経化学学会 | 一般会員 | 國石 洋 |
| 日本脳科学学会 | 一般会員 | 國石 洋 |
| 日本神経精神薬理学会 | 一般会員 | 國石 洋 |
| 日本神経科学学会 | 一般会員 | 國石 洋 |
| 日本ADHD学会 | 一般会員 | 水野 實史 |
| 日本小児神経学会 | 評議員 | 水野 實史 |
| Society of Biological | 一般会員 | 水野 實史 |
| 日本小児精神神経学会 | 一般会員 | 水野 實史 |
| 日本小児心身医学学会 | 代議員 | 水野 實史 |
| 日本小児科学学会 | 一般会員 | 水野 實史 |
| 日本認知・行動療法学会 | 一般会員 | 濱谷 沙世 |
| 日本認知療法・認知行動療法学会 | 一般会員 | 濱谷 沙世 |
| 日本小児心身医学学会 | 一般会員 | 濱谷 沙世 |
| 日本摂食障害学会 | 一般会員 | 濱谷 沙世 |
| 認知神経科学学会 | 一般会員 | 山下 雅俊 |
| 日本神経科学学会 | 一般会員 | 山下 雅俊 |
| 日本心理学会 | 一般会員 | 山下 雅俊 |
| 北米神経科学学会 | 一般会員 | 友田 明美 |
| 日本子ども虐待医学会 | 理事 | 友田 明美 |
| International Brain Mapping & Intraoperative Surgical- Planning Society | Program committee board | 友田 明美 |
| Asian & Oceanian Child Neurology Association (AOCNA) | 終身会員 (Life Member) | 友田 明美 |
| 日本発達神経科学学会 | 理事 | 友田 明美 |
| 日本小児神経学会 | 評議員 | 友田 明美 |
| 日本小児精神神経学会 | 認定医 | 友田 明美 |
| 米国児童青年精神医学学会 | 一般会員 | 友田 明美 |
| 日本子ども虐待防止学会 | 一般会員 | 友田 明美 |
| 日本ADHD学会 | 理事 | 友田 明美 |
| 日本心理学会 | 一般会員 | 藤澤 隆史 |
| 日本社会心理学会 | 一般会員 | 藤澤 隆史 |
| 日本神経科学学会 | 一般会員 | 藤澤 隆史 |
| 日本臨床発達心理士会 | 一般会員 | 藤澤 隆史 |

業績一覧

| | | |
|---|-------------|-------|
| 日本児童青年精神医学会 | 一般会員 | 藤澤 隆史 |
| 日本発達心理学会 | 一般会員 | 藤澤 隆史 |
| 日本教育心理学会 | 一般会員 | 平岡 大樹 |
| 日本心理学会 | 一般会員 | 平岡 大樹 |
| 日本社会心理学会 | 一般会員 | 平岡 大樹 |
| 日本赤ちゃん学会 | 一般会員 | 平岡 大樹 |
| 日本発達心理学会 | 一般会員 | 平岡 大樹 |
| Society for Research in Child Development | 一般会員 | 平岡 大樹 |
| 日本総合病院精神医学会 | 児童・青年期委員会委員 | 鈴木 太 |

(C) 座長

| 国内学会 (全国レベル) | 学会名 | 氏名 |
|-----------------|------------------------|-------|
| 一般講演 (口演) | 第49回日本脳科学会 | 松崎 秀夫 |
| 一般講演 (口演) | 第49回日本脳科学会 | 水野 賀史 |
| 一般講演 (口演) | 第20回日本小児心身医学会 東海北陸地方会 | 水野 賀史 |
| 一般講演 (口演) | 第40回日本小児心身医学会 | 水野 賀史 |
| 一般講演 (口演) | 第64回日本小児神経学会学術集会 教育講演6 | 友田 明美 |

(D) 学術雑誌等の編集

| 学術雑誌等の名称 | 査読・編集 | 委員長(主査)・委員の別 | 氏名 | 査読編数 |
|--|-------|--------------|-------|------|
| DOHaD研究 | 編集 | 委員長 | 松崎 秀夫 | |
| BMC Psychiatry | 査読 | 委員 | 松崎 秀夫 | 1 |
| Molecular Neurobiology | 査読 | 委員 | 松崎 秀夫 | 1 |
| PLoS One | 査読 | 委員 | 松崎 秀夫 | 1 |
| 子どものこころと脳の発達 (第13巻) | 編集 | 委員長 | 松崎 秀夫 | |
| Journal of Psychiatric Research | 査読 | 委員 | 松崎 秀夫 | 1 |
| Cells | 査読 | 委員 | 松崎 秀夫 | 1 |
| Brain Disorders | 査読 | 委員 | 松崎 秀夫 | 1 |
| 子どものこころと脳の発達 (第13巻) | 編集 | 委員 | 國石 洋 | |
| Behavioural Frontiers in Neuroscience | 査読 | 委員 | 國石 洋 | 1 |
| 小児の精神と神経 | 査読 | 委員 | 水野 賀史 | 1 |
| Brain Science | 査読 | 委員 | 水野 賀史 | 1 |
| Frontiers in Human Neuroscience | 査読 | 委員 | 水野 賀史 | 1 |
| Frontiers in Human Neuroscience | 査読 | 委員 | 水野 賀史 | 1 |
| 子どもの心とからだ | 査読 | 委員 | 水野 賀史 | 1 |
| Brain and frontier in psychiatry | 査読 | 委員 | 水野 賀史 | 1 |
| Pediatrics International | 編集 | 委員 | 濱谷 沙世 | |
| Journal of Advanced Nursing | 査読 | 委員 | 平岡 大樹 | 1 |
| Personality and Individual Differences | 査読 | 委員 | 平岡 大樹 | 1 |
| Frontiers in Psychology | 査読 | 委員 | 平岡 大樹 | 2 |
| Archives of Women's Mental Health | 査読 | 委員 | 平岡 大樹 | 1 |
| Motivation and Emotion | 査読 | 委員 | 平岡 大樹 | 2 |
| International Journal of Psychiatry and Clinical Neurosciences | 査読 | 委員 | 平岡 大樹 | 1 |
| | 査読 | | 鈴木 太 | 1 |

(E) その他